

(別紙)

## 評価細目の第三者評価結果（保育所）

※すべての評価細目（55項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

### A-1 子どもの発達援助

	第三者評価結果
1-(1) 発達援助の基本	
1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	Ⓐ・b・c
1-(1)-② 指導計画に基づく保育実践の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画の見直しを行っている。	a・Ⓑ・c
<b>コメント</b> ・指導計画は、0～1歳半までは個別、1歳半～6歳まではクラス単位で作成していた。さらに、発達支援対象児がいれば、個別に計画している。 ・保護者からの要望が多かった遊戯会、秋祭りや敬老会等、地域の行事を保育計画へ取り入れていた。 ・指導計画は、担任が作成し、主任・園長が確認、内容について指導を加え、その後職員で検討するという流れが確立されている。月に一度『月案検討会』を開催し、指導計画の評価を行なっているが、開催が遅れる場合がある。実施日を事前に決める等、ルールを検討することが望まれる。	
1-(2) 健康管理・食事	
1-(2)-① 登所（園）時や保育中の子どもの健康管理については、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施されている。	a・Ⓑ・c
<b>コメント</b> ・入園時に、既往歴や予防接種の状況を聞き取り、『児童の記録』に記載している。児童の記録は、関係職員が閲覧できるようにしている。 ・登園時に視診を行い、健康状態を把握し、『健康カード』に記載している。異常があれば朝礼で職員へ周知する。 ・視診は、日常の健康管理だけではなく、虐待をうけたと思われる子どもの発見の観点からも実施されている。標準化するためのマニュアルやチェックリストなどの整備が望まれる。	
1-(2)-② 健康診断の結果や子どもの発達発育状況を、保護者に伝達すると共に、職員に周知し、保育に反映させている。	Ⓐ・b・c
1-(2)-③ 歯科検診の結果を、保護者に伝達すると共に、職員に周知し、保育に反映させている。	Ⓐ・b・c
<b>コメント</b> ・年2回健康診断を実施している。さらに、誕生日ごとに嘱託医が作成した問診表を、保護者が作成、保育士もチェックすることにより、多面的な健康管理を行っている。 ・嘱託医との連携に力を入れ、感染症流行時等に、即座に連絡が入っていた。 ・歯科検診を毎年6月に実施。仕上げの歯磨き等で、虫歯の予防につとめている。	

		第三者評価結果
1-(2)-④	食事を楽しむことができる様々な工夫を行っている。	Ⓐ・b・c
1-(2)-⑤	子どもの成長過程における喫食状況等を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	Ⓐ・b・c
1-(2)-⑥	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	Ⓐ・b・c
1-(2)-⑦	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、家庭や専門医等と連携し、子どもの状況に応じ、適切な対応を行っている。	Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査当日、園児は楽しんで食事をしていた。トマトが提供されていたが、苦手な子どもには「まず半分食べようね」と保育士が声をかけたり、切り方をスライスにしたりと工夫がしてあった。また、食事を調理員も一緒にとって、好き嫌いや食べる量の把握をしていた。</li> <li>・ブログに、食事や料理教室などを掲載し、保護者に、毎日知らせている。</li> <li>・卵アレルギーの子どもには、卵が入っていないマヨネーズを使うなど、調味料にも配慮していた。</li> </ul>		
1-(3) 保育環境		
1-(3)-①	子どもが心地よく過ごすことのできる換気、温度、採光等の環境を整備している。	Ⓐ・b・c
1-(3)-②	生活の場に相応しい、人、物、場が相互に関連し合う環境とする取り組みを行っている。	Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床や壁に、木材をふんだんに使用していた。さらに窓が大きく設計され、どの部屋も光が差し込む造りである。</li> <li>・湿度40%以下になった場合には、加湿を行なっている。</li> <li>・入り口や園庭に花が栽培され、子どもが落ち着けるよう配慮している。</li> <li>・3～4歳児、5～6歳児の部屋は、天井が高く、開放的であるが、音が響きやすい。そのため、朝礼時に担任同士で打ち合わせ、静かな活動をしたい時は、もう片方のクラスが外で遊ぶ等の配慮をしている。</li> </ul>		

1-(4) 保育内容	第三者評価結果
I-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	○a・b・c
I-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	○a・b・c
I-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる空間、時間、物等の環境が整備されている。	○a・b・c
1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	○a・b・c
1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	○a・b・c
1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック遊び、お絵かき、折り紙等、自由遊びができる時間を設けている。さらに、その日の子どもの要望に応じて、散歩や屋外での食事を取り入れるなどの、配慮をしている。</li> <li>・裏の畑で栽培した野菜を収穫したり、小動物と触れ合うなどして自然との関わりを楽しませる工夫をしている。</li> <li>・音に合わせて自由に動く、リトミックを日常の保育に取り入れている。</li> <li>・けんかしたことを叱るのではなく、「～したかったんだよね」と背景にある思いを酌むように配慮している。</li> </ul>	
1-(4)-⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	○a・b・c
1-(4)-⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前の保護者との面談で、普段呼んでいる呼び名を教えてください、あだ名をつけないよう配慮している。</li> <li>・保育目標である『強いハート、柔らかいハートの持ち主に』を、子どもに伝えることによって心を育てている。</li> <li>・調査当日、男女を分けての保育サービスは行なわれていなかった。</li> <li>・性別で、好みや色を否定するようなことは言わないが、それぞれの役割があること、お互いを尊重することを指導しているとのことである。</li> </ul>	

		第三者評価結果
1-(4)-⑨	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a (b) c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生後半年までの子どもは、睡眠時の呼気確認を行い、一歳児未満はうつ伏せ寝をしないよう、寝返りを援助している。</li> <li>・面接を密に行い、保護者の事情をくみとりながら、昼休みの授乳や冷凍母乳を提案している。</li> <li>・0～1歳児の部屋は、広々としていたが、子どもが十分に休めたり、プライバシーに配慮した授乳スペースの確保が望ましい。</li> </ul>		
1-(4)-⑩	長時間にわたる保育のための環境が整備され、乳幼児が安心して生活できるよう、保育の内容や方法に配慮がみられる。	(a) b c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送り事項は、連絡ボードに記載し、関係する職員が把握できるようにしている。</li> <li>・特に延長保育の時間帯には、職員の数が少なくなる為、事故が起きないように十分に注意を払っている。</li> <li>・面接時に、誰が迎えに来るのかを確認し、変更の場合には、当日の朝までに連絡するよう、保護者に依頼している。</li> </ul>		
1-(4)-⑪	障害児保育のための適切な環境が整備され、障害のある子どもへの関わりなどが保育計画の中に位置付けられ、保育の内容や方法に配慮がみられる。	(a) b c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある子どもが入園した場合、個別に指導計画を作成している。リハビリの様子や摂食指導の様子等、保護者・担任・看護師で密に連携をとっている。</li> <li>・園内は、バリアフリーに配慮しており、トイレは車椅子の保護者も、利用できるよう設計されている。</li> </ul>		

## A-2 子育て支援

2-(1) 入所児童の保護者の育児支援		第三者評価結果
2-(1)-①	一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a (b) c
2-(1)-②	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	(a) b c
2-(1)-③	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と、子どもの育ちを共有するための機会を設けている。	(a) b c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時に、園長、事務長、主任が保護者と対話するようこころがけ、会話、表情、しぐさ等から潜在的な悩みや不安を感じ取り、その場で相談にのっている。</li> <li>・個別面談は、常時受け付けており、入園時に保護者にお渡しする、利用料金表（無料）等に明記しているが、平成18年度はほとんどなかった。相談場所、時間を決め、相談しやすい環境をつくる、園だよりなどで広報するなどの仕組みづくりが期待される。</li> <li>・入園前後は『児童の記録』、日常の情報交換等は『個人記録』に記録され、関係職員が情報を共有できる仕組みである。</li> <li>・遠足、秋まつり、運動会、お遊戯会など保護者の参加型行事は、出席率も高く、交流を深め、話す場を設けることに、成果をあげている。これは、4月に年間の行事日程をお知らせすることなどで、工夫をあげているからである。</li> </ul>		

		第三者評価結果
2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。		Ⓐ・b・c
2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。		Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『2日間同じ服を着ていないか?』等子どもの様子・言動から、虐待を受けている兆候を見のがさないように、こころがけている。また、様子がおかしい子どもがいた場合、すぐに主任・事務長・園長に連絡するよう職員会議などで周知している。</li> <li>・保護者へアンケートを実施する際、『子育てを楽しんでいますか?』等の質問を設け、子育てのストレスを察知し、虐待の未然防止に努めている。</li> <li>・以前、お泊り保育実施の際、虐待を受けていると思われる児童に主任が気づき、園で検討し、園長が、子どもの家や児童相談所に保護者と同行した経緯があり、その後、関係機関との連携も密にとりやすくなっている。</li> </ul>		
2-(2) 一時保育等の子育て支援		
2-(2)-① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。		a Ⓑ c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育の利用者は、5～10人/日。一時保育室を設けておらず、通常クラスに入って保育しているが、『同年代の子どものクラスに預けたい』という保護者のニーズと合い、好評である。</li> <li>・問合せが多く、地域のニーズも高いと思われる。今後、市の実施事業の指定に参入される等、一時保育事業の規模拡大が期待される。</li> </ul>		
		第三者評価結果
2-(2)-② 育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みが行われている。		a Ⓑ c
2-(2)-③ 保育所での育児相談に当たって、関係機関や団体などと連携した取り組みを行っている。		Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の開放や保育週間での地域への園開放など、地域の保護者への認知活動を行っている。まずは『園の保護者への子育て支援』を第一に、その後『こもる保護者へのケア』などを実施したいとのことである。地域のニーズも高いと思われるので、今後の活動に期待したい。</li> <li>・園長は市内の園長会の事務局を務め、月に1回程度、情報交換を行っている。保育所、嘱託医、教育委員会、小学校等の一覧表も整備され、日頃連携を図っている。</li> </ul>		

### A-3 安全・衛生・事故防止

	第三者評価結果
3-(1) 安全・衛生・事故防止	
3-(1)-① 防災に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担や避難経路を記載したマニュアルを各クラスに配布していた。</li> <li>・毎月行なわれる避難訓練も、事前告知なしに実施するなど工夫している。</li> <li>・子どもには、おはし（おさない・はしらない・しゃべらないの頭文字）という言葉を使っての指導や、避難時にアンパンマンの旗を目印にするなど、わかりやすさを重視している。</li> </ul>	
3-(1)-② 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a ○b・c
3-(1)-③ 安全を確保するための施設、設備上の工夫がなされている。	○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年5月を『こどもの命を守る月間』として訓練を実施している。平成18年度は、子どもが行方不明になった場合を想定、警察も立会った。訓練終了後、不審者進入の予防について講評を受けていた。</li> <li>・知らない人（部外者）には声かけ、挨拶を行ない、不審者進入の予防に努めている。</li> <li>・防犯カメラを3台設置、20日間分のデータを保存している。災害や不審者進入時に、ボタンを押せば全職員にメール連絡が行なえる、緊急メールシステムを採用している。</li> </ul>	
3-(1)-④ 衛生管理に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a ○b・c
3-(1)-⑤ 食中毒の発生時に対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a・○b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄後は、ウエットティッシュを使わず、シャワー洗浄を行なっている。その際てぶくろ、防水エプロンを着用している。消毒液の分量等、一部マニュアルが整備されていた。</li> <li>・食中毒に関する保健所からの通達を職員会議で話し合い、調理室入室時には、衛生管理点検表に基づく事前チェックなどをおこなっている。</li> <li>・ノロウイルス対策等、一部マニュアルが整備されている。事業所も今後の課題と自覚されているとおり、マニュアルの整備が期待される。</li> </ul>	



	第三者評価結果
3-(1)-⑥ 感染症防止に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a (b) c
3-(1)-⑦ 感染症発生時に対応できるマニュアルが整備されると共に、その対応方法が全職員に周知されており、発生状況が保護者、全職員に通知されている。	a (b) c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査当日が、健康診断の実施日であった。囑託医から、はしかが流行中であり、予防接種の提案や発症時の注意事項等の指導を受けていたが、即座に文書を作成するなど迅速に対応していた。</li> <li>・常勤の看護師が、予防接種の相談等日常的に受けており、好評である。また、園だよりなどで、毎月感染症等、健康管理に関する情報を発信している。日常的な対応は充分であるが、マニュアルの整備やマニュアルに基づく定期的な研修等、組織的な対応が求められる。</li> </ul>	
3-(1)-⑧ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	(a) b c
3-(1)-⑨ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a (b) c
3-(1)-⑩ 発生した事故並びに事故につながりそうな事例を全て把握するための組織的な取り組みが行われている。	(a) b c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登り棒付きの滑り台が設置されているが、未満児が落下する危険性があると判断し、未満児が園庭で遊ぶ際は、落下防止のガードを設置している。</li> <li>・『自主点検簿』に基づいて、年2回施設を点検している。</li> <li>・こどものケガは、時間・原因・保護者への対応を区分して全件記録されている。さらに、重大な事故については、報告書を別途作成、再発防止策を検討し、全職員に周知している。</li> <li>・事故・災害を想定した訓練は定期的実施しているが、非常勤職員への周知も考慮し、マニュアルの整備、定期的な職員研修等を充実する取組が重要だと思われる。</li> </ul>	